兵庫・袴狭（はかざ）遺跡 (1)

1 所在地　兵庫県出石郡出石町袴狭字深田・字下坂

2 調査期間　一　一九九三年（平5）六月～八月
　　二　一九九三年六月～一二月

3 発掘機関　兵庫県教育委員会

4 調査担当者　大平　茂・西口圭介・藤田　淳・鈴木敬二・
　　岡　昌秀

5 遺跡の種類　条里遺跡（水田跡）・祭祀遺跡・仏堂跡

6 遺跡の年代　古墳時代・奈良時代～平安時代・室町時代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

（出　石）

袴狭遺跡は、兵庫県の北部、豊岡市街地の南東約七kmに位置し、円山川の支流である小野川と袴狭川に挟まれた沖積低地（水田）部に立地している。標高は五～七mである。同低地内には、砂入（すないり）遺跡・荒木遺跡・田多地小谷（ちこだに）遺跡などの官衙の様相を呈する遺跡が数多く所在し、奈良・平安時代に限定すればこれらの遺跡は有機的な関係をもつものであり、「袴狭遺跡群」として一括把握することが可能である。なお南の丘陵には山名氏の居城此（この）隅山（すみやま）城（国史跡）が所在する。

調査は小野川放水路建設（県教委担当）及び圃場整備事業（町教委担当）に伴う事前調査であり、これに関連した過去の調査成果からみると、主に奈良時代から平安時代の官衙跡及び条里制にのった水田地帯、もしくは荘園跡と推定できる。特徴は、祭祀を執行した場所である祓所（砂入遺跡ほか）とこれに使用した祭祀関係の木製品が極めて良く残っていることにある。

人形・馬形をはじめとする木製品の分布範囲は広く、東西約一・五km、南北約一kmに及び、その出土量は約三万五千点を数えている。この遺物の年代はおよそ八世紀から一〇世紀に相当する。出土層位は現地表下約一～二mにあり、これまでの調査では基本的に奈良時代～平安時代の水田層とこれに伴う水路（溝）及びその洪水砂層である。

今回報告する地点は、袴狭遺跡の第六次調査、第七次調査にあたる。調査面積は、それぞれ八一六㎡、八六五七㎡である。

一　第六次調査

検出した遺構は、整地層上に建てられた礎石建物一棟及びその四周をめぐる溝である。建物の年代は、一六世紀後半と考えられる。

なお、整地層の下には古代の木製人形・馬形などを含む層を確認している。

谷間を埋め立てた整地地業は一辺約一二m、平均の厚さ約五〇cmに及ぶ。礎石は径約四〇cm前後の石を一四個検出した。各礎石は一・九五mの間隔で据えられており、その配置からみて、建物は三間×三間の仏堂であろうと推定している。

木簡二点（野位牌を含む）は、この建物の整地層から出土した。建物に伴う遺物としては、他に宋銭・鉄砲玉・茶筅・独楽・木製人形・櫛・漆器椀・箸・下駄・土師器小皿などがある。

二　第七次調査

検出遺構は、水田跡三面（上層水田・中層水田・下層水田）とそれに伴う溝である。

木簡は、平安時代前期にあたる上層水田面から一点出土した。共伴遺物には、人形・馬形などの木製祭祀具、田下駄などの木製農具をはじめとする大量の木製品がある。また、下層水田では鮭・鰹・鮫などの線刻画を描いた古墳時代の箱形木製品が出土した。

8　木簡の釈文・内容

一　第六次調査

(1)　「□石□〔高カ〕八斗五升二合」　185×35×12　011

(2)　「×迷故三界城悟故十方空
　　新物故道祐禅門霊
　　本来無東西何処有南北　」　537×63×2　061

これらは出土遺構の年代から、近接する山名氏の居城此隅山城に関連した遺物の可能性が高い。

二　第七次調査

(1)　「五条八里卅六蔀生百歩　□□
　　物マ宅□　(246)×28×9　019＊

(1)は条里坪付に関するものである。また、現地より北東約三・五kmの豊岡市側には五条の地名が残っており、五条大橋も存在する。なお、釈読については奈良国立文化財研究所寺崎保広氏のご教示を得た。

9　関係文献

兵庫県教育委員会『ひょうごの遺跡』一四（一九九四年）

（大平　茂）